

石岡市立ふるさと歴史館第十八回企画展

長峰塾

— 教育で作る新時代 —



鈴木徳四郎

長峰私塾
水西学舎



令和元年5月8日（水）～8月4日（日）午前10時～午後4時30分
月曜休館（祝日の場合は翌日）入館無料

石岡市立ふるさと歴史館
石岡市総社1 - 2 - 10 石岡小学校地内 Tel:0299-23-2398

石岡市立ふるさと歴史館第18回企画展

長峰塾

—教育で作る新時代—

◆目次

はじめに	1
少年期 私塾・郷校での学び	2
幕末 江戸留学・明治維新	10
明治 公立学校設置と水西学舎	18
おわりに	24

◆例言

本冊子は、令和元年（2019）5月8日～8月4日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第18回企画展に際して作成したものです。

展示及び本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課（竹内智晴）が行いました。

展示にあたっては石岡市史をはじめ、多くの文献を参考といたしました。

◆謝辞

展示にあたっては、鈴木功一氏にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

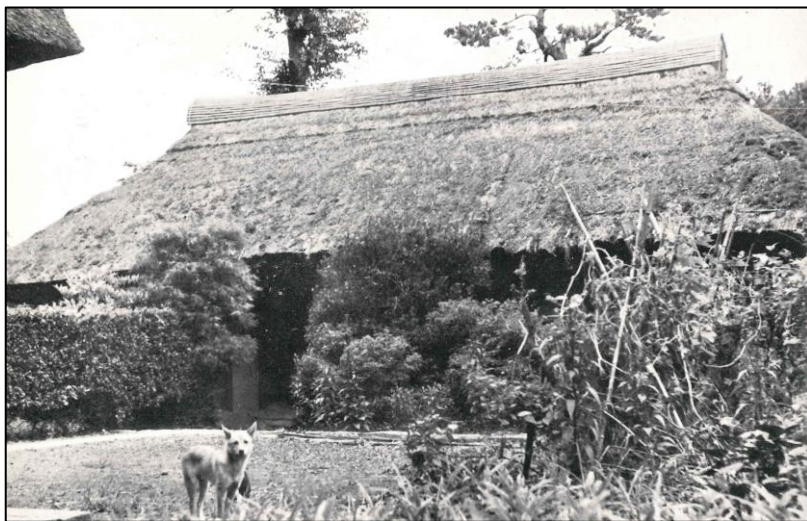
長峰塾

—教育で作る新時代—

いよいよ新元号・令和が幕を開けました。今回の企画展は、時代の転換点に開催するというこで、日本が近世から近代へと生まれ変わった大転換点・明治維新で活躍した郷土の先人、鈴木銀四郎と長峰塾を取り上げます。

現在、2020 年に向けて教育改革が進められています。その背景にはAI技術の発展やグローバル化の加速などの急激な社会変化があり、「何を」「何のために」「どうやって」学ぶのか、教育の在り方を見直すことが必要となっています。

時代の転換点に生きる私たちは何のために学ぶのか。今回の企画展が教育について考えるきっかけになれば幸いです。



長峰塾. 図説石岡市史より

少年期

私塾

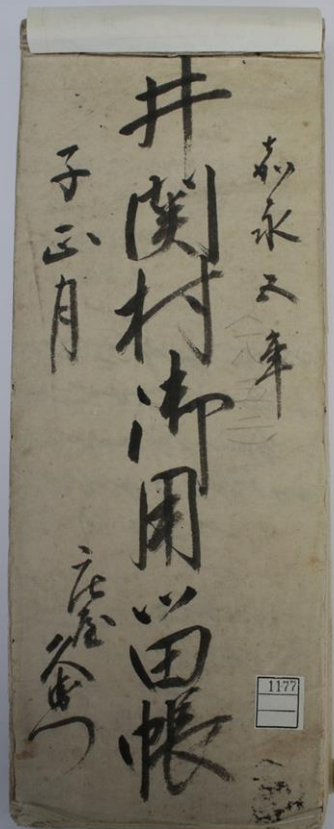
・

郷校での学び

幼少期から学問修行

水戸藩領井関村に生まれる

幕末から明治にかけて活躍した教育者の鈴木銀四郎は、水戸藩領井関村(現石岡市井関)で庄屋を務めていた鈴木久衛門の三男として生まれました。誕生日は天保9年(1838)5月7日、同年生まれの有名人には大隈重信や山縣有朋がいます。久衛門には3男5女の子がおり、銀四郎は男女合わせて6番目の子だったことから、最初は六郎と名付けられたそうです。



嘉永5年(1852)
井関村御用留帳
庄屋鈴木久衛門
の名がある

家訓に従い学問開始

銀四郎は天保 13 年, 4 歳から家訓に従い学問を始めました。最初の師は兄で医師の鈴木政孝です。

政孝も熱心に学問に取り組んだ人物です。小川郷校主簿を務め, 江戸に出て浅田宗伯関係の医学塾に入門しています。浅田宗伯は徳川將軍家の典医などを務めた人物で, 医学に限らず儒学や歴史学を学び, 大塩平八郎から陽明学も学んでいます。水戸藩において村の医師は単なる医療者ではなく, 指導者的立場にありました。正孝も指導者層として幅広い学問を学んだものと思われます。

江戸時代, 寺子屋は 6 歳ごろから 12 歳ごろにかけて就学したとされ, 4 歳から学問を始めるのはとても早いことです。当時の井関村は決して裕福な地域ではありませんでした。そんな郷里を庄屋として守るために, 早くからの教育が行われたものと思われます。

積翠塾に学ぶ

私塾入学

幼少期から学問を始めた銀四郎は、『水西山荘の晩香先生履歴書』によれば嘉永元年、『晩香年譜』によれば嘉永 3 年に田伏

さいとうばんせい

村(現かすみがうら市田伏)にある齊藤晩晴の私塾に入学します。

たちはらきょうしよ

とよだてんこう みやもとちゃそん

齊藤晩晴は立原杏所などに学び、豊田天功や宮本茶村、
かくらいさざん
加倉井砂山などと並び称されるほどの著名な学者です。水戸藩に仕えましたが、天狗党と諸生党が激しく争うようになると郷里に戻り、私塾「積翠塾」を開きました。中正不偏・徳育を重視し、門人は

ふじたとうこ さくらあずまお

3000 人に数えるとされます。また、藤田東湖や佐久良東雄、

らいみきさぶろう

頼三樹三郎など多くの学者・志士と交流を持ちました。

銀四郎の教育方針は家族や友人への忠孝を第一としています。この方針には志士との交流によって醸成された勤皇思想が影響しているのではないのでしょうか。



史跡 佐久良東雄旧宅(石岡市浦須)

鈴木晩香

積翠塾生時代の大きな出来事としては、嘉永6年の黒船来航があります。15歳の少年だった銀四郎も危機感を感じ、志士としての意識が芽生えました。これにより一層学問に打ち込んだのか、『晩香年譜』によれば安政元年に積翠塾の塾頭となっています。銀四郎は晩香年譜のように晩香と号していますが、これは晩晴から一字をもらって付けられたものです。強く影響を受けたことがわかります。

学業篤志，郷校時代

郷校教育，研究に打ち込む

安政元年(1854)に積翠塾塾頭となった銀四郎ですが，この頃さらに小川郷校へ学問研究のため通うようになります。

銀四郎は同年延方郷校で論語の講義を行っています。この講

かねこまごじろう

義には徳川齊昭の下で藩政改革に活躍した金子孫二郎が郡奉行として臨席しており，学問に対する熱心な姿勢を賞されています。また，翌年にも郡奉行所から賞され，会沢正志斎の著書であ

てきいへん

そうえんわけん

る『迪彝篇』と『草偃和言』各1冊をもらっています。水戸学の研究に一心に打ち込んでいた様子がうかがえます。



延方郷校聖堂

(潮来市辻)

二十三夜尊本堂

に移築され現存

銀四郎が講義を

している

文武修行

学問に打ち込んできた銀四郎は、『晩香年譜』によれば安政3年に郡奉行の勧めで水戸藩撃剣師範役長尾左太夫の門人となり、武道の修練も始めます。安政3年から4年にかけては水戸藩の藩政改革期にあたり、郷校へ農民層の入学が可能となり、学問教育と並行して武術教育が郷校のカリキュラムに組み込まれる時期です。小川郷校では安政3年末に武場や射撃場が整備されました。銀四郎はこの流れに先行する形で剣術修行を許されており、勤勉な姿勢を高く評価されていたことがうかがえます。

水戸藩の教育事情

銀四郎が学問に打ち込んだ背景として、水戸藩の教育事情を見てみましょう。

銀四郎の通った小川郷校は文化元年(1804)、論語の講義を行った延方郷校は文化3年と、ともに水戸藩の郷校の中では最も早い時期に設置されています。小川郷校は農村の指導者層である郷医の教育、延方郷校は一般農民の教育に重きを置いています。この2校はそれぞれ異なる層を対象に設定していますが、教育によって農村を立て直そうという設置目的は共通しています。

上記のように水戸藩は19世紀前半から農村を荒廃から救う手立てとして農民層の教育を重視しました。これにより農民階層にも教育を受ける意識が幕末にかけて根付き、庄屋鈴木家のような幼少期からの学問を家訓とする家が誕生したのでしょう。



小川郷校跡（旧小美玉市立小川小学校）

幕末
江戸留学・
明治維新

江戸留学，弘道館での文武修行

戸田銀次郎の下で文武修行

安政 4 年，銀四郎は齊藤晩晴や家族の勧めで江戸に文武修行に出ます。

いいだたかやす

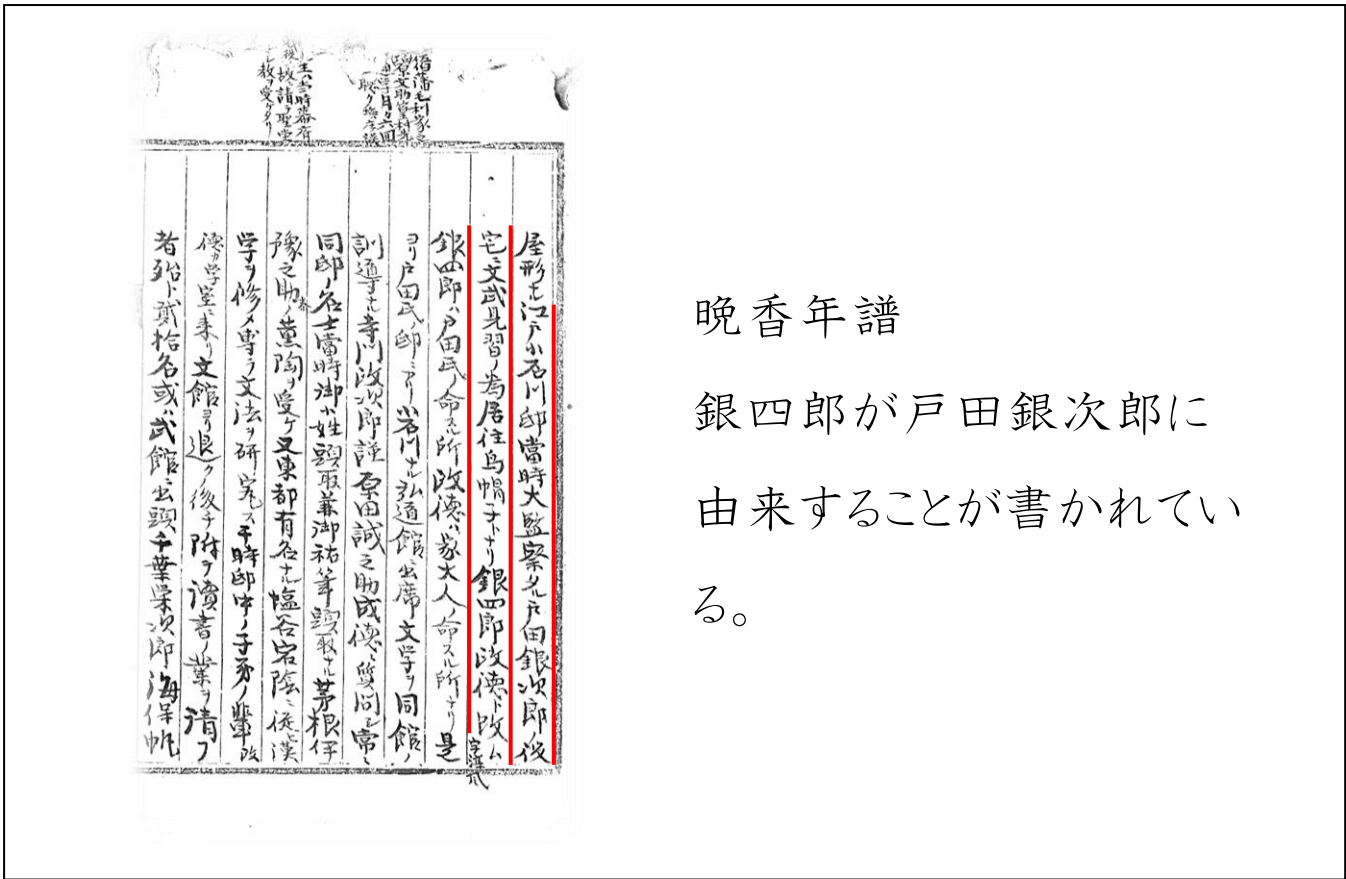
江戸に出た銀四郎は豊後岡藩の藩医・飯田隆安の世話に

とだぎんじろう

なり，水戸藩の大物，戸田銀次郎邸に文武見習いとして住み込むこととなりました。これにより，同じ住み込み修業生や銀次郎邸に出

入りする水戸藩士との交流が生まれました。晩香年譜には
あじまたてわき
安島帯刀の名前などが見られます。この頃の交流は銀四郎の思想に大きな影響を与えたものと思われる。

戸田銀次郎と銀四郎の関係を物語るものには，名前があります。銀四郎という名前は戸田銀次郎からもらったものです。銀四郎は後年まで戸田家と交流を持っており，銀四郎にとってこの出会いが大きなものであったことがうかがえます。



晩香年譜

銀四郎が戸田銀次郎に由来することが書かれている。

江戸弘道館での学び

戸田銀次郎邸に住み込んだ銀四郎は、江戸弘道館に通い

てらかどきん はらだしげのり ちのねいよのすけ

講義を受けました。寺門謹や原田成徳・茅根伊予之介から文

しおのやとういん

かいほはんぺい

学，塩谷宕陰から漢学，千葉栄次郎・海保帆平などから剣術を学ぶなど，著名な学者や武道家の薫陶を受けました。

江戸弘道館での文武修行を積んだ銀四郎は，農民層の出身ながら水戸藩から姓帯刀を許されています。

彰考館写字生に任じられるも…

安政5年，父大病の急報

前年より江戸弘道館で文武修行に打ち込んでいた銀四郎は、安政5年に彰考館の写字生に任じられます。それまでの努力が実り、水戸学の総本山で研究する機会を得ましたが、時期を同じくして銀四郎の下へ父・久衛門大病の急報が届きます。報せを受けた銀四郎は江戸留学を切り上げ帰省し、庄屋を継ぎました。

庄屋の傍ら私塾を開く

井関村に戻った銀四郎は、庄屋として村政に関わりながら、安政5年5月に私塾を開き郷里の子弟の教育に従事し始めました。

この頃の水戸藩は幕末の混乱期を迎え、安政の藩政改革で農民にも学問や武術の修練が求められるようになっていました。銀四郎は江戸留学・志士との交流を通じて時代の揺らぎと教育・人材育成の重要性を強く認識したものと思われます。その結果、庄屋を継いで間もない時期から私塾を開いたのではないのでしょうか。

志士との交流、幕末動乱期

水戸藩の動揺

銀四郎が井関村に戻った安政5年は、幕府を差し置き水戸藩に幕政改革を促す密勅が届けられ

ぼご みっちょく

た「戊午の密勅」が起こった年です。これにより水戸藩は、密勅を実行すべきという尊攘激派、密勅は返納すべきという尊攘鎮派、尊攘派と対立する保守派の3派に分かれて対立します。

水戸藩では勅書返納反対派の武士や領民が街道の宿場町に集結し返納への反対運動を展開します。江戸留学によって水戸学の薫陶を受けた銀四郎も反対派として水戸や江戸で活動し、安政6年に小金宿で起こった反対運動にも参加しました。



長峰塾の大イチョウ
安政5年に植樹と伝わる

志士との交流

あいざわせいしさい

『晩香年譜』によれば、銀四郎は安政 6 年から会沢正志齋に指導を仰いでいます。外国の脅威や上記の密勅事件、安政の大獄による幕政への不信感増大など大きな社会の揺らぎの中、銀四郎はより深く水戸学を学ぶことを求め、志士として活発な動きを見せます。

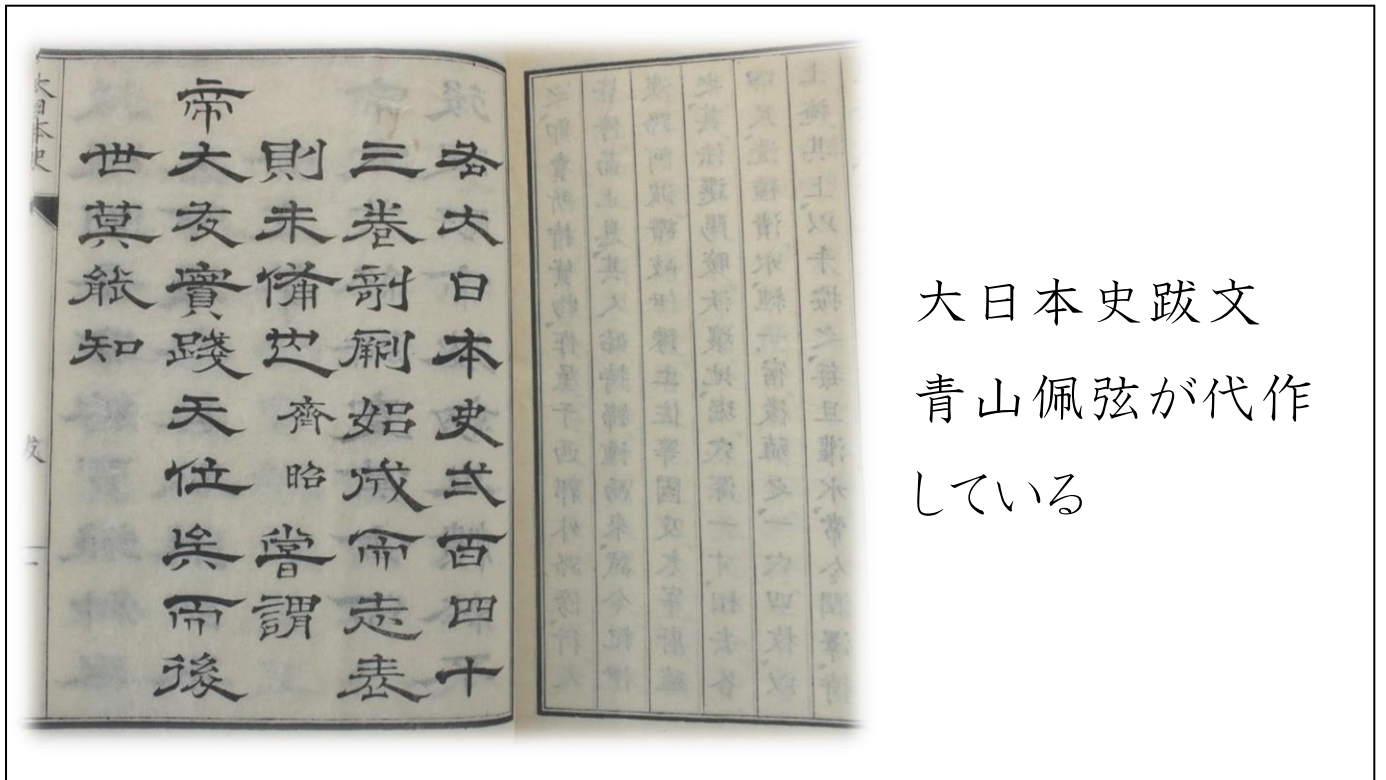
文久 3 年(1863)には水戸藩に攘夷の嘆願をし、那珂湊の志士会合に加わり、元治元年(1864)の天狗党の乱にも参加しています。銀四郎は負傷によって戦列を外されたため生き残りました。

漢学私塾「惜陰舎」

私塾の再開

天狗党の乱前後の万延元年(1860年)から慶應2年(1866年)までは、『晩香年譜』などに私塾に関する記述がありません。天狗党の乱頃は水戸や那珂湊など各地を転々とし井関村を離れることが多かったためか、慶應2年に庄屋を免じられています。志士としての活動の中、一旦閉塾したものと思われます。

その後、慶應3年に漢学私塾「惜陰舎」を開きました。明治3年あおやまはいげん(1870)に青山佩弦の薫陶を受け教則を改正し、明治6年に新潟県から家塾開業許可を得るなど、明治8年頃に閉塾するまで郷里の子弟の教育に当たりました。



惜陰舎

私塾の名前にある「惜陰」とは時間を惜しむという意味です。銀四郎は江戸弘道館時代、講義が終わってからも他の学生と集まり読書などの学問研究に励むなど勤勉でした。塾名からも一心に学問に打ち込むべきという銀四郎の姿勢が見えます。

教育方針は会沢正志斎などから学んだ水戸学の教えを教育の柱として、実践を重視し、礼儀作法や親・友人・国への忠孝を学ばせました。志士としての活動を基礎に、明治維新で揺れる日本を支える実践力のある人材を育てようと意図したのでしょう。

明治 公立学校設置と水西学舎

公立小学校設置に奔走

地域に小学校を作る

明治維新の後，銀四郎は明治4年に若森県の史生に推薦されますがこれを辞退，翌年新治県より井関村の戸長に任命されます。明治7年に新治県より小学校設置の命を受け，公立小学校設置に向けて動き出します。

小学校の設置にあたって，銀四郎は井関周辺の石川・成井・宍倉の戸長との協議に奔走します。小学校設置に尽くすため，明治8年に惜陰舎も閉塾しています。その結果，明治8年に4ヵ村共同小学校を宍倉の最勝寺に設置することが叶いました。当時生徒は男児70人，女児30人の合計100名でした。

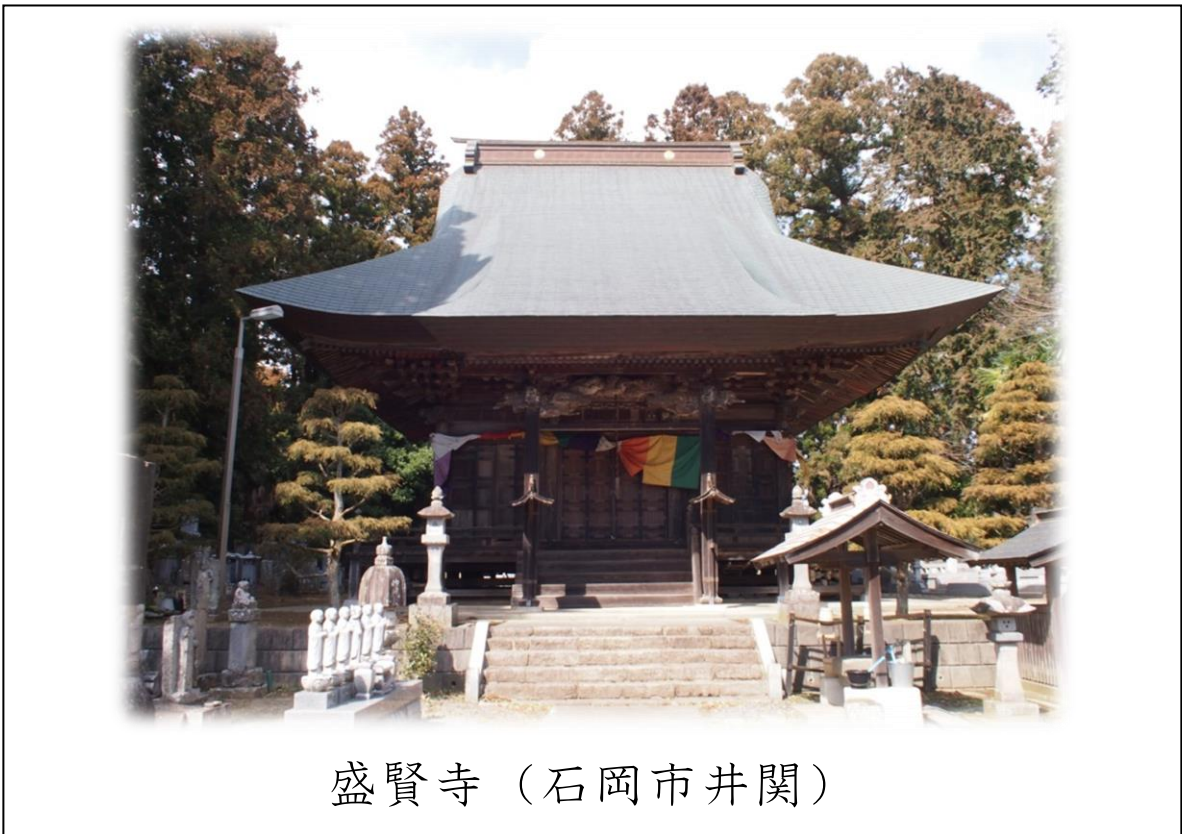


最勝寺（かすみがうら市宍倉）

井関に移転

明治9年9月に小学校を井関村の盛賢寺に移します。銀四郎はこの際に学校事務係となり学校運営に取り組みます。

盛賢寺に移った時、教員には同じ井関村にあり高名な楢山塾の塾頭、鈴木礼介も加わっており、学校世話役は銀四郎の甥にあたる医師で後に県議会議員を務める鈴木久が勤めています。銀四郎の尽力の成果か、井関村が一丸となって学校整備に動いていたことがわかります。



盛賢寺（石岡市井関）

新しい時代、誰もが学べる環境を求める

無償授業を提案「米学校」

銀四郎は井関村に不学の戸のない環境を整えるため、授業料を払う余裕のない家庭には無償で授業を行い、教科書などの用具を貸し出す学校「米学校」の設置を提案しています。

明治前期の頃の小学校は授業料を徴収しました。貧富に応じて授業料は分けられていましたが、井関村は洪水や干ばつなどが多く裕福な土地柄ではなかったため、教育への投資は渋られ、就学率が低迷していました。学制序文によれば、教育は人々が自立し豊かな生活を得るために受けるものとされています。銀四郎も同様に考え、井関村の誰もが教育を受けて困難な生活から脱出できるよう無償教育を提案したのです。

長峰私塾「水西学舎」

無償授業などを提案した「米学校」が実行に移されたのかは不明ですが、銀四郎は明治20年頃に私塾「水西学舎」を開きます。水西学舎は授業料を取らず、運営経費は私費で賄われました。修学年限は決まっておらず、何年も通うものもいれば半年程で退塾するものもい

ました。『庭訓往来』などを用いた基本的な読み書きから四書五経などの漢学、『大日本史』などを用いた歴史学、作詩などを教えており、近世の私塾の内容を引き継いでいます。塾生には事情があり、小学校に通えないものもいれば、葦穂村・林村など遠方からわざわざ通うものもありました。塾生の様相から様々な要望をもった人々の受け皿となっていたことがわかります。



鈴木銀四郎写真

鈴木銀四郎の教育思想

昭和十五年九月十五日報告

時代	徳川時代並二明治初年、私塾、関心調査
場所	長峰塾、新治県新治町長峰
経緯	身元、長峰塾、新治町長峰、私塾、関心調査
生徒	大體イテ、華族、士族、平民、共ニシテ、約三十人
授業料	長峰塾、新治町長峰、私塾、関心調査
教科	修身、算術、漢文、書法、習字、算術、漢文、書法、習字
教育	徳川時代並二明治初年、私塾、関心調査
法	修身、算術、漢文、書法、習字
行	徳川時代並二明治初年、私塾、関心調査
調査者	鈴木銀四郎

徳川時代並二明治初年、私塾、関心調査
 長峰塾、新治町長峰、私塾、関心調査
 修身、算術、漢文、書法、習字
 徳川時代並二明治初年、私塾、関心調査

徳川時代並二明治初年ノ私塾ニ関スル調査

上は昭和 15 年に長峰塾の教育内容を調べたものになります。これを見ると、銀四郎は修身教育に力を入れており、対して数学や科学などの欧米で発展した近代学問は教えていません。

銀四郎は新治県の命で公立小学校の設立に尽力し増設を求めるなど、新時代における近代学問の必要性も認めていたものと思われます。しかし一方で明治政府の欧米の知識を身につけることを第一とし、近世的な道德教育には重きを置かない姿勢には、水戸学を学び志士として活動した身として納得できない部分もあったのではないのでしょうか。その反映として私塾では家族や友人への

もとだながざね

忠孝を教えたのでしょう。同様の反発は儒学者・元田永孚も『教学聖旨』で示しており、日本各地であったものと思われます。

おわりに

銀四郎は 70 歳頃まで私塾で教鞭を振るい、

たかしまか えもん

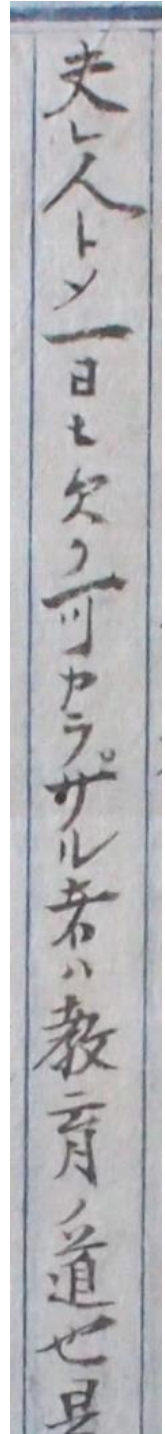
その間も実業家として活躍した高島嘉右衛門や

いいだよしふさ

畜産業・食肉加工の研究者である飯田吉英などと談話に赴いたり詩を送るなどの交流をし、学び続けました。銀四郎の学問熱に触れた塾生は 700 名に上るとされ、地域に教育が根付く基礎となりました。

鈴木銀四郎は志士として時代を変えるために学問に励み、教育を新たな時代を作る原動力として環境整備に尽力し、既存のシステムでは行き渡らない部分は自ら私塾を開き補いました。その時代に何を学ぶべきか考え、同じ志をもつ人々と交流し、学んだ内容を周囲に還元し新たな時代を作る。これは現代の私たちの学び方、学びの生かし方にも共通するものです。

今回の展示をご覧になった皆さんも、自身の学びと向き合い、新元号とともに新たなチャレンジを始めてみてはいかがでしょうか。



公立学校二校
ヲ設置スル経
緯より抜粋

石岡市立ふるさと歴史館第18回企画展

長峰塾

—教育で作る新時代—

令和元年5月8日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195

茨城県石岡市柿岡 5680-1

TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016

茨城県石岡市総社 1-2-10

TEL 0299-23-2398